

研究部だより

令和2年7月22日(水) No. 4
研究部(牧野, 早坂)



**授業づくりで
大切なこと
を見いだす**

～ 授業研修会 ～

7月17日(金)に校内で授業研修会を行いました。

今回は、今年度赴任した4名の先生方が国語科・算数科のいずれかの授業を提案し、他の本校教員が参観するものです。



研修会のねらいは「本校教員の授業力向上を図り、教育実習生への指導に生かせるようにする」ことです。指導案を通して授業者が何を大切に授業づくりに取り組んだかを読み取り、実際の授業を通して授業者と子供の姿から教員としての学びを深めました。研修会を通して、「授業づくりで大切なこと」を次のように整理しました。

- 子供と授業をつくる姿勢 【主役は子供】【子供の発言を取り上げる そしてしっかりと聴く】
- 子供の問いを生み出す働き掛け 【発問の精選と吟味に本気で取り組む】
- 「深い学び」を求める 【練り合う・話し合う場面を恐れない】【揺さぶり・問い返し】
- 環境整備(黒板の清掃, 子供の机上整理, 「手ぶらで教えよ」実践)

また、以下は授業者の4名の先生方の振り返りから抜粋したものです。

特に印象に残っているのは、「意義」という言葉だ。子供の実態を考えたときに、その導入は必要だったのか。そのペア学習は授業のねらいを達成するために必要だったのか。本当にその発問はその言葉選びで良かったのか。指導を行う際に必要とされる様々な要素の「意義」について考えさせられた。今後も学び続けなければいけないと切に感じた。

授業では、始めの確認に時間をかけすぎて、本当に深めたいところが深まらなかった。また、深めるところも、子供対教師のやり取りではなく、子供の考えをもとにして、それをたくさんの子供たちにつなげながら、学級としてのまとめをしていかなければいけないと感じた。今回のことを参考に、これからも頑張りたい。

「学校全体で子供の力を高めるために、附属小学校としての統一した指導法を用いて積み上げを図る。」ゆき先生の言葉に、研修会の大きなねらいを感じた。授業づくりの基礎・基本をおろそかにしていた自分を省みると同時に、学生にとって初めての教育実習を指導する宮城教育大学附属小学校の教員としての責任の重さを感じた。

附属に赴任した時に教頭先生から「1度まっさらな状態で経験を積みなさい。」と言われたことの意味が分かった。今回いただいた指導・助言を「今日から」生かせる場をいただいている。いつでもどこでも研究に勤しめる環境を最大限に活用し、研鑽していきたい。

4名の先生方が感じているように、附属小教員の全員が**子供の前に立つ身として謙虚に学ぶ姿勢を忘れず、子供の成長を目指して**日々の授業に取り組ましましょう。

貴重な学びの機会を与えてくれた授業者の先生方、ありがとうございました。

文責：研究主任(三浦)